

## 南北都留地区社教委連・公連合同研修会

12月13日(木)、男女共同参画推進センター「びゅあ富士」(都留市)を会場に、「平成19年度 南北都留地区社会教育委員連絡協議会・公民館連絡協議会合同研修会」が、約110名の参加を得て開かれました。

最初は、当事務所の佐々木正文主幹による、北都留地区の行事、「『シオジ 森の学校』活動実践報告」が発表されました。この事業が、「北都留地域教育推進連絡協議会」の数ある事業の1つであることや、プログラムにも、「森を育てようⅠⅡⅢ」、「苗木を育てよう」、「森のキャンプ」等と、工夫されたメニューの用意があること、さらには、林務環境事務所、森林組合、市民ボランティア、地元大学・短大等の多くの協力や賛同があって成り立っていることを説明し、資料の提示にパワーポイントの併用と相俟って、ビジュアルな、分かり易いものでした。

次いで、県教育委員会教育次長の佐藤安紀氏による、「社会教育の現状と今後の進むべき道」と題した講演が開かれました。「六次の隔たり」(人は自分の知り合いを6人以上介すと世界中の人々と間接的な知り合いになれる、という仮説)から入られ、「エビデンス」、「パブリシティー」という語などをキーワードとして話され、また、何か企画する時は、ねらいや目的を明確にし、何を訴えたいのかが、肝心であることを力説されました。

氏は、文化庁の室長時代に東京駅前の丸ノ内の再開発を民間活力との連携の上、成功させており、そのノウハウやNPO法人との関わり等、ご自身が手がけられた多様にして豊富な経験を基に、説得力のある内容で、あっという間に時間が経ちました。



## 明日の風 「小林雅英投手野球教室」

1月14日(月)、今年で7回目を迎えるクリーブランド・インディアンス(前千葉ロッテマリーンズ)の小林雅英投手の野球教室が、上野原市宮桂川野球場で開催されました。

小林雅英投手は地元の  
大月市真木の出身、7シーズン連続の20セーブを達成し自身の記録を更新、この度、大リーグ・インディアンスの入団を決め、ドリームカムツール「夢の実現」を見事に果たしました。

ロッテ在籍中は、「コバマサ」の愛称で親しまれ、150キロを超える直球とキレのいいシュート、縦のスライダーが武器で、「幕張の防波堤」とも称され、大活躍しました。

この野球教室は北都留地域教育推進連絡協議会・明日の風(奈良明彦会長)が主催し、大月市や上野原市のスポーツ少年団野球部会、また小林投手の同級生を中心とする「応援団」のメンバー、そして地元への恩返しにと、小林投手自身が全面的に協力して行っている行事です。



会場には、北都留地域のスポ少野球チームや中学校の選手、保護者等約620名が集まり、開会式及び、大リーグ入団記念の花束贈呈後、各チームの代表の投手一人一人が丁寧に投球フォームをチェックしてもらいました(写真左)。

閉会式では、小林投手のご好意で、ゲームやプレゼント抽選会がグラウンドで開かれ、直筆のサイン入りの帽子などが当たった子供たちは大喜びでした。また、出身の真木少年野球団の子どもたち等により、エールがおくられ、小林投手も感慨無量の様子で、かの地での活躍を胸に秘し、決意を新たにしているようでした。

## 都留市・西桂町地域の「中・高連携連絡会議」開催

12月4日(火)、「生徒の健全育成を目指す『中・高連携連絡会議』」が、谷村工高を会場に開かれました。この会は旧都留学区内の中学校と高校を対象として開かれ、今年で7年目を迎え、生徒指導の情報交換や、授業や部活動などの課外活動を含めた連携のあり方を検討する会議です。この日は中学校4校と高校2校、教育事務所から計16名が出席して各学校の課題や取り組み、今後の連携のありかたについて様々な意見交換がされました。

生徒指導上では、携帯電話やネットによるトラブル、不登校生徒の存在とその対策など、また、「わかる授業」の展開による学校改革、学習意欲喚起のための工夫、将来を見据えた進路指導等、各校の創意工夫による発表と質疑応答、意見交換が積極的に行われました。

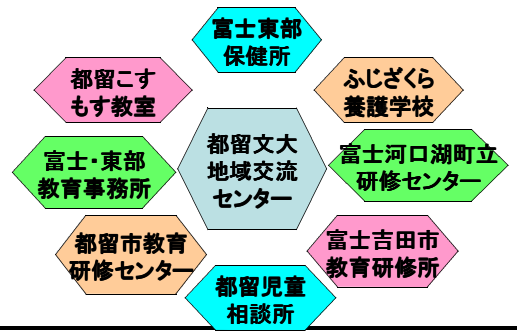


## 第2回南都留教育相談ネットワーク会議

12月5日(水)、第2回「南都留教育相談ネットワーク会議」が、南都留合同庁舎で開かれました。この会議は、様々な事例研究をしながら、問題を抱える子供、家庭を支援するために協力・連携していくことを目指しています。

今回も三者の事例に基づく提案と質疑応答による研究協議が熱心に行われ、奈良教育大学に転出された、粕谷貴志先生(前都留文科大学「地域交流研究センター」)のご後任で、助言者の品田笑子先生(同所属)より、的確なご助言や、「Q-U」を用いたアセスメントの手法の紹介等もありました。

注) 右図中の、「ふじざくら養護学校」の「養護」は、現在「支援」です。



## 桂高等学校 文化局地域交流会 ～地域との交流深める～

桂高等学校(長田義人校長)では、毎年12月上旬に、生徒会・文化部が中心となり、学校周辺の老人クラブや市内のコーラスグループを招いて、交流会を開催しています。

19回目の今年は、12月8日(土)に約90人の方を招待して行われました。生徒が作ったクッキー、杏仁豆腐、お茶等で招待した方々をもてなし、コーラスグループの合唱や桂高校文化部の発表を鑑賞しました。帰りの際には来場者に冬の花をプレゼントし、来年の再会を約束しました。



## 南都留地域教育フォーラムの報告

11月2日(金)、明見小学校(浅沼茂夫校長)で行われた第10回南都留地域教育フォーラムには、各界から330余名が集まりました。本年は節目の10回目となり、例年の7つの分科会に、1つの特別分科会を設けました。今回も全分科会で事前の打合せ会を開き、分科会の運営や討議の重点を明確にした上で当日に備え、その甲斐あってか、お陰様にて各分科会もスムーズに進行できたかと思えます。

アンケートでは、貴重なご意見を多数いただきました。全体会については、時間の短縮の工夫、講演会の必要性が触れられ、アトラクションの太鼓演奏については、「心に響くもの」という意見・感想が圧倒的であり、「太鼓の音に元気づけられた」、「聞く側も真剣に聞いていたので良かった」等、好評を博しました。分科会については、「討議時間がやや長すぎた」という意見がある一方、圧倒的に「時間が少なくて残念」という声が多く、また、「子ども達との接触を改善するのに良い体験となった。」や、「次回はインターネット、

形態サイト等の話し合いもあっていいのではないか。」等の具体的な提言もいただきました。来年度への要望・改善については、フォーラムの「継続」を多くが期待し、「時間の十分な確保」の中で、各界の方々、行政も含め関わっていくことの大切さが寄せられました。中には、タイムリーな話題として、「国語力向上、学力向上の取り組みもしてほしい。」との、貴重なご意見も頂戴いたしました。

寄せられました要望や課題については、今後、このフォーラムを企画する「ワーキンググループ会議」等で検討していき、皆様のご意見を反映させながら、「地域の子供たちは地域で守り、育てる」というスローガンの下、更なる発展に向け準備を進めていきます。今後とも宜しく願い申し上げます。

最後に、会場の提供・準備を快く引き受けてくださいました、明見小の浅沼茂夫校長先生はじめ諸先生方に心より御礼を申し上げ、報告といたします。

## 「明日の風」・「富士の光」掲示板(南北都留)

- ☆ 第3回ひばりが丘高等学校 授業公開  
期日: 1月24日(木)、25日(金)13:30～  
場所: ひばりが丘高等学校
- ☆ 谷村工業高等学校 課題研究公开发表会  
期日: 1月28日(月)12:40～  
場所: 都留市文化ホール(ゆいぽうホール)
- ☆ 「明日の風」 アスリート実技講習会  
期日: 2月9日(土)9:00～  
場所: 大月市営陸上競技場
- ☆ 富士北稜高等学校 生徒発表会  
期日: 2月11日(月)12:30～  
場所: 富士五湖文化センター大ホール

- ☆ 第1回「子ども理解講座」 ～自己を育む教育～  
期日: 1月26日(土)10:00～  
場所: 都留文科大学1号館 215教室  
講師: 筒井潤子(臨床心理学) 森博俊(障害児教育論)  
田中孝彦(臨床心理学)
- ☆ 都留文科大学地域交流研究センター公開講座  
期日: 2月15日(金)18:00～  
場所: 都留文科大学2号館2101教室  
講師: 品田笑子(地域交流研究センター)  
演題: 児童・生徒の集団参加を促す  
「学級ソーシャルスキル」トレーニングのツボ  
講師: 河村茂雄(教授) 武蔵由佳(講師)  
演題: 「5万人のデータから読み解く子どもたちの実態」  
～子どもたちは本当に変わったのか?!～

○上記掲示板についての問い合わせ先

富士・東部教育事務所 地域教育支援担当 TEL 0554-45-7841 (FAX 45-7823)